



3年生対象進路講話② ～ 大学受験への道のり ～



前号に引き続き、文中のIは石塚さん、Kは桐生さん、Sは櫻井さんです。

Q. 3年生の夏、秋頃はどんなふうにご過ごしていましたか？

- (K)・目の前の課題を丁寧にやっていました。特に、やり直しに時間をかけていました。
- (I)・分からないことを人にきく習慣をつけました。後期課程に進んでも、周囲の友だちは同じメンバーだし、先生方も一緒。中等には、質問しやすい環境が整っています。そんな中、友だちの得意教科、不得意教科も見えてきて、分からないところを誰に質問するか探っていました。
- (S)・勉強をする意欲が出ない時期だったかなあ。そんなときは、思い切って気分転換した方がいいと思います。やる気が出たときに、一気に集中してやる。
- (K)・担任の先生が言ってました。「勉強で疲れたら、勉強で疲れを取る。」例えば、数学に集中して疲れを感じたら、頭の使い方の異なる英語に切り替えるというような…。(Sさんが「オニ！（笑）」)

Q. 受験期の過ごし方について、教えてください。

- (I)・1年上の先輩がセンター試験を受験した頃から、なんだかすごく焦りを感じました。ちょうどその頃、周囲の友だちも受験を意識しだして…。教室の雰囲気が変わってきたのを覚えています。こういう緊張感、友だちの表情が真剣になってくる感じ、これが皆のやる気につながってくる。やっぱり受験は団体戦なんだなあと思いました。私は自分で、1日の時間の使い方を手帳に書き留めていました。1年上の先輩の卒業式からです。だらけてしまった時間帯は黒く塗りつぶす。ダメだった日は真っ黒になります。6年生になって黒の部分が徐々に減っていきます。センター試験の2か月前からは真っ白でした。このとき初めて、自分は受験生になったんだと思いました。試験本番のときに自分を落ち着かせてくれるのは、「自分はこれだけやってきたんだ」という自覚です。



笑顔で語る13期生（左から佐藤さん、東さん、井東さん）



13期生が経験した中等6年間。前期課程から後期課程への継続性が中等のいのちであることを再確認しました。今春、見事に進路希望を実現したOB、OGに共通しているのは、中等教育学校という環境のメリットを率直に受け止め、それを生かそうとしてきた点にあるのです。



新潟県立村上中等教育学校

〒958-0031 村上市学校町6番8号 TEL.0254-52-5101 FAX.0254-53-6773

HPアドレス <http://www.murakami-ss.nein.ed.jp>